

2023年度第3回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録については、発言内容を一言一句正確に記録したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

- 日 時 2023年12月4日(月)午後1時30分～午後3時5分
- 会 場 豊岡市役所立野庁舎A会議室
- 出席委員 13名
- 欠席委員 4名
- 傍聴者 2名

報告事項

(1) 自立支援協議会からの提言について 資料1

委員(自立支援協議会委員と兼務)より要旨説明

- ・ 施設生活支援の充実
入所施設から地域へというような大きな流れがあるが、その人がその人らしく地域で暮らしていくことが一番の目的。グループホームや地域、関係者の連携、共働をもう少し進めるような仕組み、動きが必要。
- ・ 施設から一般就労への移行
障害があっても地域で活躍したいとみんな思っていて、それぞれのできることを活かしながら、一般就労をしたいという方々の思いを実現していくためには、ハローワークや生活支援センターの連携が必要だということ。また、企業に対しても障害者の理解が必要だということ。関係するあらゆる団体が連携、共有することが必要。
- ・ 障害児支援の提供体制の整備
地域で子どもを育てていくという意識を地域の皆さんに広げて意識づけをしていくことが大きな課題。そのために啓発活動や情報発信を、行政も含めて活動をしてはどうかという提言。
- ・ 相談支援体制の充実
一番大きな課題は専門職の不足。専門的な知識を持った職員は年々不足していく。一事業所では解決できない大きな課題なので、事業所、国や県、市で考えていかなければいけない。
- ・ サービスの質の向上
虐待防止委員会が機能してないというようなことでは困るので、機能を確認することが求められる。人材不足が一番大きな課題で、専門性も問われるので、危機感を持って対応する必要がある。

委員

- ・ 1 ページの一番下の提案に地域格差とあるが、1市5町の地域格差を地域福祉計画や高齢者計画と絡めて議論したり、国保連からデータをとって一度調べてみたら、不便さが出るかもしれない。
- ・ シェアハウスについては前回委員会で出た話で、かなり具体的な提言で、これを計画に盛り込めるかどうかは政策判断が必要なものになると思う。

- ・ 公共交通の話は、人間誰しも高齢者になったら車を運転できなくなるので、これも地域福祉計画とか他のセクションと一緒に考えていかないといけない。
- ・ 障害者の方が介護保険のサービス事業の対象になった時にどちらを使うのか。もちろん介護保険優先だが、例えばそうなったことによって、これまで使えてきたものは使えなくなった、あるいは使いづらくなった、負担料金が増えたとかいうケースがある。この件に関しては、第5期計画ぐらいの時に、厚労省がこのことはしっかりと議論するよう各自治体に何らかの連絡があったと思う。ただ、これも今日すぐに解決することではない。どう考えていくかという話になると思う。特に豊岡市の身体障害者は高齢化率が高いので、この話はかなり深刻だと思う。

委員

- ・ 地域生活支援の充実の中に書かれている本市の実情にはどんなものがあるか。

事務局

- ・ 施設入所者が地域に移行して、グループホームやヘルパーを利用していくときに支援者が足りない。また、地域での生活の中での障害者理解や地域で支えるといったところもまだまだな部分があると思う。

委員

- ・ 特に豊岡市として他市にはない実情があるのか。

委員長

- ・ 施設入所からグループホーム、グループホームから一般就労、一人暮らしに向けてステップアップしていく支援をみんなでしている。もっと地域の人にも理解していただけるような場があればと思う。

委員

- ・ それぞれの段階で支援する人が足りていないということ。

委員長

- ・ ヘルパーや訪問看護の訪問先によっては往復で半日かかることもあって、人材不足に影響していると思う。これは障害、高齢者、児童の方も含めて考えられる問題。

委員

- ・ 但馬の場合、全市町がそういう状況にある。例えば元気な高齢者が障害者の支援、障害者が高齢者の支援のような体制作りを国の方も推奨したりしていて、但馬ではそういう取り組みが少しずつ始まりつつあると思うので、そういうことが文言の中にあってもいいと思う。

委員

- ・ 地理的な事情もあるし、人材不足についてはもう少し広く考えた方がいいかもしれない。

委員

- ・ 絶対数が少ない。

委員

- ・ 障害児支援の提供体制の文言で、「地域で育つことは恥ずかしいことではないという認識が持てるようになれば」とある。ここで言わんとすることはわかるが、この文言は考えてもいいのでは。

委員

- ・ 恥ずかしいから、悪いからと思って、他人に頼るということではなく、理解がまだ進んでいないというところで引き下がってしまう場面はたくさんある。同年代の子に混ぜてもらって、障害の重い子が一緒に遊ばせてもらっても、保護者の方からは何かあったら困るからやめなさい、一緒に遊ばないでとなる。障害のある子の理解が進んでないので、わが子が障害のある近所の子と遊んでいて何か起こったら困るから距離を置く。保護者の人は責任問題だと。そういう場面が実際にあるので、やっぱり迷惑かけるんだと思ってしまう。大人たちの考えがまだまだそういうところはたくさん残っているなどというのはある。日本ではインクルーシブ教育はまだ進んでいないので。今でも 小学校高学年の子供から奇声が出ていたり、明らかに障害だとわかると、離れたところからジロっと見るとか、こそこそ話すとかいうことは起きている。地域の皆さんが助け合って当たり前にいるということがまだ進んでいない。なので、表現としては、もっと地域の理解を進めようという表現になると思う。

委員

- ・ これは自立支援協議会で出てきた話なので。

事務局

- ・ 今回の提言もボリュームがあり、主なものという形で計画にはのせることになると思う。また、この提案を全て盛り込むことも難しいので、了承いただきたい。

委員

- ・ 但馬の9月の有効求人倍率は1.5、兵庫県1.02、全国平均1.2ぐらい。但馬はすごく人手不足。高校を次に卒業する生徒は1330人ぐらいいるが、だいたい進学で8割ぐらい但馬外に出て行く。高校求人もたくさんあるが埋まることがない。

協議事項

(1) 第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画の素案について 資料2～5

委員

- ・ 数値目標の出し方で兵庫県の方から計算式のようなものはないのか。豊岡市独自か。というのは、あるところでは、2023年度の実績見込が計画値になっており、あるところでは平均値になっており、あるところでは2022年度になっており、あるところではピークになっている。

事務局

- ・ 例えば施設入所者では削減目標は示されているが、今説明した事項については、それぞれの市町村で状況が変わるので、国や県から一律にこのようにといった指示はない。

委員

- ・ 例えば増減していると言いながら、2022年の数値を使ったり平均値をとったり、いろいろなので、文言を統一された方がいい。平均値と書くなら、しっかり平均値を。一般的に増減をしているということであれば平均値を取って、増減しているのであればその増減を吸収する。
- ・ 数値を、事務局でよく議論し、正副委員長の方で精査していただく。数値、数式の出し方も、ロジックが共有された方がいい。

委員

- ・ 相談支援のところ、セルフプランがすごく多い中で、この計画値でいいのかと思う。
- ・ 人材が足りないところと関係するかもしれないし、相談支援専門員が足りない現状もあるのでセーブせざるを得ないのかもしれないが、数をそこそこ上げていって、相談支援を増やしていく努力しなければならないのが計画じゃないのかなと思う。

事務局

- ・ 委員のおっしゃる通りで、相談支援推進事業補助金の制度で、相談支援専門員の増加を図っていく。支援者が増えた分、利用が増える部分は、計画の方で見込んでおかなければいけない。

委員

- ・ 医療型短期入所は、今後3年間コロナ禍で減ったままの数で大丈夫か。但馬圏外への移動が可能になって、しかも施設整備のバックアップを図っていき使いやすい施設ができれば、上がっていく可能性がある。以前並みぐらいっていうのは必要かと思う。

事務局

- ・ これからはコロナ前に戻っていくと思う。もうちょっと加味した数字を検討したい。
- ・ 今回の計画値においては、皆さまからいろんな意見をいただいて、修正するところは修正したい。他にも不具合な数字があれば連絡いただきたい。事務局の方で見直しを強化して、あとは正副委員長との協議の中で確定させていただけたらと思う。
- ・ 第4回委員会の後にパブリックコメントの募集を開始する。次回は1月中旬から20日頃を予定している。